

2011年度第4回執行理事会議事録

期 日：2011年10月8日（土） 13:00～18:20

場 所：地質学会事務局

出席者：宮下会長 渡部副会長 久田副会長 藤本常務理事 齋藤副常務理事 小嶋
高木

中井 星 向山（16時出）各理事，（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：石渡 井龍（宮下） 坂口（宮下） 内藤 西（藤本） 平
田（宮下） 藤林（宮下） 山口（藤本）

*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者10名，委任状8名，合計18名の出席。

*前回議事録の承認

前回議事録を承認した。

I 審議事項

1. 地質調査研修事業について

地学情報サービス(株)が解散になり，同社から，産総研の認定研修制度を利用した表記事業の継承に関し，検討依頼を受けた。

研修事業は，地質学会が引き継いで行うこととし，関東支部に実施協力を打診する。

学会事業で各支部にニーズ調査を含めて検討を開始するに当たり，関東支部が担当して，モデルケースとして進める方向で検討することとなった。

2. 放射線測定・調査研究委員会について

9/8の理事会に提出，検討した内容をもとに，委員会名の変更等を行い再提出された。

内容確認の結果，「…発足について」の文章のうち，趣旨の部分は削除すること，規則7条は，条文の削除，8条，「内規の改正」→「規則の変更」，条文の頭を「本規則の変更は・・・」に改める，などの修正が加えられた後，承認とする。

3. 地質学的事象に関する立て看板（説明看板）について

成城三丁目緑地湧水池の看板の誤りについて（元会員から寄せられた意見に基づいて）。

看板の内容を確認した後，間違いが確定的であれば，世田谷区と管理運営している財団に対し伝え，相談に応じる旨連絡する。

4. 年会回り持ちに関する覚書(案)

支部回り持ちのローテーションに係わりなく，何らかの理由により大会を行いたい大学等があった場合，ローテーションの間に挟み込み，支部のローテーションに変更はなく，1年ずつずらすこととする。ただし，申し出の大学等は，予め所属支部に相談し，了解を得たうえでのこととする。本案を12月理事会に諮ることに

する.

5. 水戸大会夜間小集会「東日本大震災と地質学会の責務」の報告と今後の対応

- ・防災にたいする地学の必要性を教育分野に発言していくための理論武装が必要.

第四紀学会

はアクティブに動いている. 地質学会としても遅れないよう行動を起こしていく必要がある.

小学校の教員に対しては地学分野の支援が必要.

- ・2012. 3. 11 に一般向けの事業はできるか?

構造地質部会は 3 月 17, 18 日に研究者, 技術者向けの緊急例会を仙台で開催する予定.

国の防災に対して地質学会としてのプレゼンスを示すような行事を検討すべき.

6. 水戸大会応用地質部会ランチョンの報告と提言

- ・地質技術者教育について, 他学会とも協力して中核グループを立ち上げて議論していく必要

がある. 中国やアジアの国々の土木技術者の国際的プロジェクトへの参画が増大する傾向があり, 将来的には日本の技術者の海外での活躍の場が失なわれる懸念がある.

日本の地質技術者の地位が低いと言われて久しく, 改善もない状況の中で, 将来を見据えた.

地質技術, それを支える教育システムの構築と確立をしていくことが必要. 地質学会が中核

的役割をはたすために, まずは, 技術者継続教育委員会と JABEE 委員会が相談して, 組織作

りを行っていくことが重要.

7. その他

1) 関東支部: 2012 年地質学会学術大会などに関する緊急の要望

- ・請負業者との契約が遅れた件については, 鉱物科学会との調整に手間がかかったことが大きい. 大阪大会は単独開催なので, 速やかな契約締結が可能が可能.
- ・発表申し込み締め切りを早めたのは, 当初 9 月初旬開催予定だったためと (鉱物科学会との合意事項) 開催校の都合により開催日程が遅くなった, 鉱物科学会が震災のため申し込み締め切りを遅らせたため, 結果的には地質学会担当セッションと鉱物科学会担当セッションの締切が異なってしまった.
- ・9 月中下旬の開催の場合, 8 月号(8 月 31 日頃発行)にプログラム記事を掲載すればいいので, 7 月 10 日前後の発表申し込み締め切りでよい. 9 月初旬に開催の場合は, 要旨締め切りを 6 月 20 日頃とし, 7 月号に掲載のプログラム確定等の作業スケジュールは可能な限りの日程調整をすることで対応するよう検討する.

2) 笹川科学技術研究助成, 実践研究部門への推薦: 在田一則会員ほか

「巨大津波堆積物のはぎ取り展示物作成のための現地試作実験とそれを用いた津波防災教育の実践」について, 地質学会として推薦することを了承した.

II 報告事項

(1) 運営財政部会: 総務委員会

<共催・後援依頼, 他団体の募集等>

1. いわて三陸ジオパーク震災復興シンポジウム (11/25, 盛岡市アイーナホール) の後援

について同実行委員会より依頼があり, 承諾した.

2. 公益社団法人計測自動制御学会より, 「第37回 リモートセンシングシンポジウム」(10/31)

協賛依頼があり承諾した.

3. むかわ町穂別博物館(主催者)より「モササウルス国際シンポジウム」(12/3) 後援の依頼が

あり, 承諾した.

<外部の賞>

1. 第29回富山賞の推薦依頼(〆切11/22, 学会〆切11/10日)→HP, geo-flash, News誌に掲載

<その他>

1. 地学団体研究会(会長大塚勉)が出した「地学教育」と「原子力」の二つの声明について, 声明内容の周知と実現への尽力依頼があった.

地学教育については, 地質学会に続いて, 第四紀学会, 地団研が同様の声明をだしたという紹介をURLでおこなう.

2. 地惑連合学協会会長会議(11/13開催)は, 会長の代理で久田副会長が出席する.

3. 第22期学術会議新会員: 地球科学関係

継続(H26/9/30まで) 北里 洋 永原裕子 中島映至

新会員(H29/9/30まで) 大久保修平 氷見山幸夫

連携会員も決まったとのこと.

<会員>

1. 今月の入会者(1名)

正会員(1名) 濱口正博

2. 今月の退会者(2名)

正会員(2名): 櫻井健一, 森谷 匡

3. 今月の逝去者(2名)

名誉会員：山岸猪久馬(8/23)

正会員：安間 恵 (7/15)

4. 9月末日会員数

賛助：26 名誉：72 正会員：4044（正会員：3852, 院割正会員：180, 学部割正会員：12） 合計 4142（昨年比 -95）

<会計>

1. 水戸大会の収支

業者からの見積りは上がっている。最終的には鉱物学会との分担調整が必要。赤字になることはないのではないか？

2. 災害調査団の旅費

他団体からの参加者は旅費の支給があった。地質学会は、現在障害保険加入はしているが、旅費の支給はある程度限定する等のガイドラインが必要。その検討は、地質災害委員会と会計担当でおこなう。

今後は、科研費の緊急調査費等の申請手続きも検討する。

3. 地学情報サービス預託の地質図の扱い

地学情報サービス(株)から現在預っている分（200冊余）については、できれば地質学会で引き取って欲しい。ギリギリ、仕入れ値（40数万）で、買い取りをしてもらえば、会社解散の後始末のためにはありがたいとのことであった。これまでの会員サービスへの協力を受けたことと、会社解散の事情に鑑み、買い取りを承諾する。ただし、在庫品については、今後在庫セールなどのキャンペーンを行い、できるだけ費用回収に努力をする。

4. 今年度科研費は、全額（140万円）交付の通知があった。

(2) 広報部会：広報委員会（坂口）

- ・部会・支部の連絡ツール、SNS 導入、テストサイト実施中。
- ・共同通信から、惑星地球フォトコンについての紹介記事を、各新聞社の科学欄に配信したい旨連絡があり、承諾した。記事は科学の周辺の興味を引く話題について、30行ほどの文章と写真からなる。記事掲載誌、掲載日等は未定。なお、最優秀賞(カッパドキア)の写真撮影者からの利用許可は、共同通信社が確認済み。

(3) 学術研究部会：行事委員会（星）

1) 水戸大会

- ・合同大会の参加者概数は 1060 名。
- ・地質情報展の参加者は 926 名。
- ・茨城大学へ両学会会長連名で礼状送付した。

- ・水戸大会アンケートを広報委員会に依頼し、60名から回答を得た。集計結果を学会ホームページに掲載。行事委員会で結果を分析し、次回以降の大会に活かす。

2) 大阪大会

- ・大阪 LOC から提出された見学旅行コース案(10コース)を行事委員会として承認。大阪大会では、LOCの意向により、見学旅行案内書の冊子版を作成しない。
- ・学術大会と市民講演会、地質情報展を大阪府立大の共催とする方向で話が進んでいる。主に会場使用料と広報の点で府大側の全面的な支援が受けられる可能性大。・情報展に向けて、今回も科研費(研究成果公开发表(B))を申請する方向で作業中。

3) 地惑連合大会(JpGU)関係

- ・来年のJpGUのセッション提案で、地質学会あるいは地質学会専門部会の共催を得る場合は、事前に必ず行事委員会の承認を得るよう、会員に対して geo-Flash で通知(従来と同じ手続き)。

(4) 学術研究部会：国際交流委員会(石渡)

なし

(5) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会(小嶋編集委員長)

1) 今月の編集状況(10月6日現在)。

- ・投稿論文総数 58 編 [総説 11 (和文 10, 英文 1), 論説 30 (和文 28, 英文 2), ノート 10 (和文), 報告 7 (和文)] 口絵 5 (和文)

* 論説には 5/31 までに投稿された短報を含む。特集号は現在 4 本の予定あり。

- ・査読中 47 編 受理済み 20 編 (うち通常号 5 特集号 15)

スカラーフンでの原稿受付が始まった。

(6) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会(井龍編集委員長)

- ・編集状況の報告
受理原稿が不足は続いている。

(7) 企画出版委員会(山口)

なし

(8) 社会貢献部会(藤林)

1) 地学教育委員会(中井)

- ・読売新聞久留米支局の記者から地学教育に関する取材があったが、記事になっていない。
- ・指導要領の改正に従って、地学基礎が開設されると、履修者が増える予想(埼玉県)。群馬県は減る予想。

2) 地質の日の行事(藤林)

- ・来年度の行事計画については、屋外での応用地質学会との共同事業を検討(斎藤理事)
- ・人集めは広報次第。広報をすることが重要。

- ・来年度のフォトコンテストの表彰式+講演会をどうするか. 早急に場所等を決める.

展示できるところがあれば, 地方の博物館にも依頼する方向で調整する.

(9) ジオパーク支援委員会 (高木)

9月18日に室戸ジオパークが世界ジオパークに認定され, 国内の世界ジオパークは5地域となった. 来年は隠岐ジオパークが世界の視察を受ける予定.

(10) オリンピック支援委員会

- ・委員会活動報告【資料⑩参照】

水戸大会情報展で地学オリンピックの展示を行った.

イタリア大会で日本は金1, 銀2, 銅1. 東南アジアの国々は国を挙げて手厚く英才教育を施してきている. 参加国数が増えると厳しくなってくる.

文部科学省の科学オリンピック推進委員会の正式メンバーになった(地理オリンピックも同様).

国際大会では, 英語力が必要. 筆記試験は翻訳するが, 実技試験は翻訳をしないという意見が出ている. 数学系では英語は関係ない, 地学と同様に語学の壁があるのは生物.

(11) 震災復興事業プラン検討WG (高木・向山・藤本・斎藤)

- ・事業プラン応募件数 8件
- ・採択6件(うち2件 標本レスキュー)

この6件で募集は停止する.

(12) 連携事業委員会 (渡部)

なし

(13) 地質災害委員会 (斎藤)

- ・台風12号による紀伊半島の土砂ダム合同現地調査団(地盤工学会, 応用地質学会, 関西地質調査業協会)への参加

日程 9月17-19, 23-25の2回, ただし, 17日からは台風豪雨のため奈良班の予察のみ.

地質学会からの参加者: 奈良班-三田村宗樹・木村克己・朝比奈利廣・林 慶一
和歌山班-鈴木博之・山本俊哉・後 誠介・中屋志津男

希望者全員(8名)に旅行傷害保険に加入

奈良班の調査報告はHPに掲載

以上